

予約不要 鑑賞無料

ワンドリンク 組合員 300 円

非組合員 500 円

* フィルム提供/都立多摩図書館

第5回東職シネマカフェ

2014年4月23日(水)18:30～開場18:15

03-5841-7971

syokikyoku@

tousyoku.org

会場: 東京大学職員組合書記局(第二食堂3階奥)

火宅

1979年 川本プロ 19分 カラー 16ミリ

二人の若者に同時に愛された菟名日処女(うないおとめ)は生田川に身を投げて自らの命を断った。—それから五百年あまり、処女の塚を訪れた旅の僧が見たものは、いわれなく地獄の業火にさいなまれる無惨な処女の姿だった。能「求塚(もとめづか)」を川本喜八郎らの人形で映像化。

絵でもなく、立体でもない人形アニメーション。バルナ国際映画祭グランプリ、芸術最優秀賞ほか、数々の映画祭で受賞。

さよなら八丈小島

1969年 都広報室 10分 モノクロ 16ミリ

東京から南 300km はなれたところに八丈小島がある。島民 24 世帯、94 人は貧困と苦難に耐えながら生活をしてきたが、42 年、ついに新しい生活の場所をもとめて、全員離島にふみきった。

室町時代には既に人が定住し、平安時代末期の武将・源為朝が自害したという伝説が残る。江戸時代には島の北西部に鳥打、南東部に宇津木の2村が置かれ、宇津木村で村議会を置かない、村民の選挙によって議決される、直接民主制が昭和30年まで実施されていた。

東京タワーはわが息子

東京都教育庁、NET 30分 モノクロ 16ミリ

東京タワーの設計者である内藤工学博士の人となりインタビュー形式で紹介する。

“耐震構造の父”と呼ばれる建築家・内藤多仲(たちゅう)は1886年山梨の生まれ。1910年に東京帝国大学を卒業。戦前に構造設計を手がけ、今なお残る建物に旧大阪商船神戸支店(1921年、設計は渡辺節)、大隈講堂(1926年、設計は佐藤功一・佐藤武夫)、戦後は東京タワーのほか、通天閣(2代目)、札幌テレビ塔などを手がけ、“塔博士”とも呼ばれた。初期のインタビュー番組で、生放送のためか、内藤の人柄によるためか、女性アナウンサーとの呼吸が合わず、ちぐはぐな応対が、番組を楽しく、見るものを飽きさせない。

オイシサをつくる

～発酵の魅力

1996年 桜映画社 33分 カラー 16ミリ

風土と微生物に育てられる発酵食品。ナレズシの文化を中国雲南省と日本各地に訪ね、東アジアに特有の魚と米と麴を用いた食品の数々を紹介する。後半は、素朴なチーズ作りをトルコ遊牧民に取材、西欧各地に開花したチーズの文化を描く。

松川八洲雄演出。教育映像最優秀賞。日本作業映画奨励賞。

有史以来、自然の微生物を利用した発酵作用で作られてきた伝統的な食品は、風土と文化に支えられて、どのように発展してきたのだろう。見た帰りにはきっとワインでチーズが欲しくなる。